

議論してみたいこと

安藤聡彦（埼玉大学教育学部）

vyg01436@nifty.com

[1] 自己紹介

[2] SN (special needs) を有する多様な若者たちへの多様なアプローチ

- * 授業のユニバーサルデザイン化（浦和工業高校@埼玉県）
- * 特別支援教育の地域における情報発信基地づくり（上尾特別支援学校上尾南分校@埼玉県）
- * 「個々の学びや心理に寄り添う」広域通信制高校（クラーク記念国際高等学校@学校法人創志学園）
- * SNEC 体制（直営+サポート施設）による生徒への支援と伴走（明蓬館高等学校@株式会社アットマークラーニング）

[3] 議論してみたいこと；〈迷宮〉から〈バスタ〉に至る道

高校教育（後期中等教育段階）は現代社会における学校から社会への移行の大きな分岐点であるにもかかわらず、全日制普通科高校進学以外の進路を選ぼうとする多様な若者たち（及びその家族や進路指導を行う中学校教員など）にとって、その進路はいまだ〈迷宮〉のように見えづらいのではないかと同時に、そのこと自体が中学校以前の段階で学校になじめない子どもたちにとって「将来に対する不安」の大きな要因になっているのではないかと。人生の分岐点であるからこそ高校を SN を有する多様な若者たちにとっても、様々な人生経路のハブとしての〈バスタ〉のような空間にしていくことが必要なのではないかと。

- ① 入口：進学する側からは「高等学校における特別支援教育」の世界はいまだ見えにくい。誰とどのように連携や情報交流を進めればよいのか？
- ② 途中：入学した生徒が必ずしもまっすぐに卒業に至るわけではない。かれらが社会で生きていくために必要な力や資格をこの段階で獲得するために必要な支援や連携はどのようなものか？
- ③ 出口：大学も会社も SN を有する多様な若者たちが生きやすい状況にはなっていない。どのような機関とどのような協議・連携を進めていけばよいのか？